

第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成27年度第6回定例会 要点記録

日時 平成27年12月22日(火) 午後2時～4時

場所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・長谷部委員・橋本委員・萩原委員・戸澤委員・伊藤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員・(欠席1人)

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・野中恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館館長・豊泉もとまち公民館長・木場並木公民館長・秋元本多公民館事業係長

1 連絡事項

- (1) 配布資料確認
- (2) 第5回定例会要点記録確認 ⇒承認

2 報告事項

(1) 平成27年第4回市議会定例会について

事務局：12月議会の一般質問で公民館に関して3人の議員から、①公民館の利用者を細かく分析し運営に反映すべきではないか。社会教育の中で事業を展開しているが、市民ニーズを十分に把握し、民間の力を活用した生涯学習を進めるべきではないか。②公民館の保育室事業で、保育室グループの活動回数が減ってきているので、回数を増やすように見直すべきではないか。③11月14日に開催した関東甲信越静公民館研究大会で取り上げられた「ESD」の考え方を国分寺市の公民館でも取り入れて運営してほしい。という意見があった。

委員：民間の力を活用すべきとの意見は、何か具体的な例があるのか。

事務局：市民が参加したい講座を公民館は把握しているのか。民間が行っている事業がたくさんあり、公民館は社会教育の枠の中になるが、生涯学習として広く民間の事業も取り入れて公民館事業を実施することを考えてもらいたいという意見であった。

委員：それは、公民館とは別に民間が事業を行うのか、公民館の中で行うのか。

事務局：公民館の中でという意見である。

委員：民間というのはNPO法人も含むのか。

事務局：含むと考える。公民館では、すでにNPO法人や学校との連携を図っているが、さらに民間との連携を図ってほしいという内容である。

委員：保育室の回数に関しての質問で、予算に関わると思うが、課としてどのように回答したのか。

事務局：公民館としては、保育室事業は自主グループの学習・活動を支える大切な事業であると認識している。保育を付けたグループ活動の回数が年12回

と減っており、年間を通して活動することが難しいという意見はある。公民館は、様々な活動をしているグループに対し、公平で公正な支援をしていくことが必要である。また、保育のある講座以外の事業にも保育をつけてほしいという要望もあり、前年度並みの予算で対応している。

委員：公民館の利用者を細かく分析するとは、どのような目的か。

事務局：公民館事業の成果を統計数値化することが大事であり、公民館を利用しているグループは、どこの地域が多いか、年齢層はどうか、などを把握することは、これからの公民館に大切な情報であるため、数値化できるよう工夫していくべきであるという意見である。公民館としては、来年度から数値化できるように考えていく。

委員長：難しい問題である。カルチャーセンターでは、申込み時点で情報がデータ化される。公民館のコストパフォーマンスを説明せよといわれると、有意義な数値を出すことが必要であるが、利用しているグループに情報を出してもらうことは、現時点では難しく、いろいろな形で情報を収集している状況があると思う。

委員：情報収集する形ではないのか。

事務局：現在公民館では登録制度を導入していないため、グループに情報を提出していただく方法がないが、今後予約システムを導入した場合、登録制度を導入することになる。その時、メンバーの年齢構成などを収集する機会と捉えている。図書館は、利用者情報がデータ化されているので、数値による統計資料が作成できる。公民館としてもできるだけ情報を収集し、データ化する方向で検討していきたい。

委員長：講座の申込みのフォーマットをデータ化するなど検討する必要があるが、このような質問を重く受け止めて対応する必要があると思う。

(2) 平成27年第11回国分寺市教育員会定例会について

事務局：第3回総合教育会議が11月9日に開催され、地域の教育力を高めるため、公民館が核となって施策を進めるとよいという意見があった。また、教育7DAYSの取り組みにおける並木公民館芸術祭と、秋の光・もとまち公民館まつりについて報告。

委員：教育力を高めるためという意見があったが、公民館として考えたとき、教育委員会の範囲内で議論されているのか。例えば「地域づくり」「コミュニティづくり」について広く議論されたのか。

事務局：教育委員会の中での議論はなかったが、公民館運営サポート会議の設置時に「地域づくり」についての話はでていた。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会について

委員：第2回研修会を1月30日(土)午前10時から狛江市で行う。出欠について確認していただきたい。申込みは本多公民館に、締切は20日としたい。

(4) その他

- ①成人式への出席依頼が正・副委員長にきているが、都合のため欠席を報告。
- ②NPO 法人国障連喫茶5周年記念誌の配布に伴う説明。

3 協議事項

(1) 諮問について

①「福祉との地域づくりを探る」について

委員：資料1「国分寺社会福祉協議会の取り組みについて」に基づき説明。

委員長：身近な小学校区で様々な活動をし、公民館での地域会議などで相互に連携しながらコミュニティづくりを行っている説明があった。地域活動に関することや公民館活動に関わることについての質問をお願いしたい。

委員：それぞれの地域の特徴をいかす説明があったが、資料の第九小学校区は活発に活動している様子でその内容を詳しく知りたい。

委員：ここねっとナインの九小地区は、住民懇談会の際に住民からやりたいという声があったこと。会場として恋ヶ窪公民館があったことが大きく影響している。また、メンバーに民生委員や自治会の方がいて、職員としては口を出さず、リーダーとなる方を中心に住民の意思で動いたことが大きい。

委員：社会福祉協議会の職員が各地区で行っているのか。グループがあって説明を行っているのか。

委員：今、ここねっとナインの説明をしたが、主体はここねっとナインになり、それ以外は職員の働きである。プランはプランとして、活動を展開するときに新しく組織を作るのか、今ある組織と一緒にするのか悩んだ。ここねっとは活動の総称であり、五小エリアは一度立ち上がったがなくなっている。それ以外は、すでに地域会議が組織されているところもあり、現在も関わりは続いている。

委員：人材の育成に関して、地域におけるコーディネーターやファシリテータを養成しているのか。

委員：ボランティア講座を行っている中で、地域コーディネーター養成講座を実施した。各地区から参加したが、地域に戻ってできることは難しい状況がある。恋ヶ窪公民館で実施した「恋ヶ窪アカデミー」のように、地域で公民館と連携して講座を実施した方が効果的だと思う。

委員：第一小学校の運営協議会があり、見守りというボランティアがあり、その動きを社会福祉協議会がつながりをもって各小学校で行っている。

委員長：自治会などの組織は温度差があるのか。

委員：市内には、130近くの自治会があり、加入率が40%を割っている。大きな自治会が消滅しているエリアもある。自治会と一緒にどのように関わることかさまざまである。

委員長：自治会よりPTAの方が良いのか。

委員：PTAの役員は1年で交代する。つなげるのはうまく進める必要がある。

委員：P T Aの名称がないことは。

委員：第十小学校と第五中学校になる。

委員：学年委員会とか類似する組織はある。

委員：自治会で小さくても活動している団体もあり、大きくても活動していない団体もある。

委員長：社会福祉協議会は、地域福祉で交流とか、つながりを目的とする話であったが、最終的には一人ひとりの安全とか福祉に結びつけていく目的があるのか。それとも前提となるのか。

委員：地域の課題を地域で共通認識することが必要である。その中で、大きな課題から、個人の課題を認識することで、結びつけていきたい。まず、社会福祉協議会職員であることを覚えていただき、井戸端会議などへ積極的にでていき、顔を覚えていただき、つながりがもてるようになった。

委員長：井戸端会議の主催は。

委員：自治会となる。

委員：社会福祉協議会の職員は、行政からの出向などで構成されるのか。

委員：基本的に社会福祉協議会で採用した職員で、市の職員はいない。

委員：異動で地区が変わるのか。

委員：地域福祉系のボランティアセンターから総務係など内部の異動もある。

委員長：ボランティアセンターは専門的な業務を行っているのか。

委員：委託も事業もある。

委員長：公民館活動と社会福祉協議会の小地域での活動の中で、交流できるところとか接点をもう少し発展させた方が良いとか、公民館が協力して地域づくりを共催するなど、アイデアがあると思うがいかがか。

委員：社会福祉協議会から Web で連絡をもらっているが、ボランティアの要求がある。公民館で活動しているグループに発信してはどうか。

委員：公民館で活動したグループで楽器を演奏するグループが、ボランティアセンターでもイベントボランティアの登録をしていただき、施設へ紹介し、個人では囲碁のサークルを紹介してもらった。

委員：社会福祉協議会が登録されている内容をもう少し具体的に知る機会があつて良いと思う。

委員：各小・中学校へ出前講座として取り組んでいる。福祉学習会として、車いす体験・高齢者疑似体験・目の不自由な方や地域で活動している団体等を紹介し、学校の総合学習のお手伝いを実施している。

委員：議会での民間の活用であると、社会福祉協議会のボランティアをプログラムとして公民館で実施することは可能であると思う。

委員長：公民館を委託の対象としないで、公民館とは総合的な関係をもって展開することが必要と思う。非常に福祉に範囲は広がっており、社会教育も広がっている。つながり合うコミュニティという意味では同じことを目指していると思う。お互いに何ができるのか共有しながら、進めていくことが

大切であると感じた。

委員：資料2「国分寺障害者団体連絡協議会などの取り組みについて」に基づき説明。

事務局：資料3「くぬぎ教室について」に基づき説明。

委員長：国分寺市の公民館活動の歴史がわかったと思う。質問がありますか。

委員：資料2で、従業員の方が公民館事業に参加することがあるのか。資料3で、5年以上在籍すると卒業になるのか。また、新規の加入が減ってきているということは、今後事業が縮小していくのか。

委員：基本的には、公民館まつりに参加しているが、公民館主催事業に参加することは難しい。くぬぎ教室に参加する方も少ない。理由は、精神での就労支援であるため、くぬぎ教室の知的障害との違いがある。

事務局：くぬぎ教室での5年間は一応目途となる。加入者の減少による支障については、現在減っている訳でなく、年齢が高齢化していることがある。

委員長：くぬぎ教室にステップアップを含めると、長く青年期を過ごされている方がいて、その方がほんだ喫茶の就労支援に結びつくことが難しいのか。

委員：くぬぎ教室の参加者は、様々な就労支援を受けながら、ほとんどの方が就労している。くぬぎ教室には、日曜日の余暇活動としてくぬぎ教室に参加している。

委員長：くぬぎ教室のメンバーと国障連との関係は。

委員：国障連の手をつなぐ親の会のお子さんがくぬぎ教室に通っている。

事務局：ほんだ喫茶は、精神と身体の障害をお持ちの方が働いている。

委員長：社会福祉協議会との接点はあるのか。

委員：ほんだ喫茶と社会福祉協議会との関係は、祭りなどのイベントに出店する時に、スタッフとメンバーだけでは足りないため、ボランティアをお願いしている。

委員：社会福祉協議会では、コーディネーター役で仲介することが主なのか。

委員：そうなる。

委員長：歴史的に国障連の活動は、当事者の学びから社会参加を目指すところで、人権の側面や相互理解など意味を持っている。他市の状況は。

委員：障害者学級を公民館で行っているのは8市になる。喫茶は国立市がある。

委員長：小地域活動としての活動や不特定多数の問題を持つ市民が、公民館をどうして参加することを学びました。今後の日程については。

事務局：今回は1月26日（火）で、テーマは「子どもとの地域づくりを探る」として、第八小学校の校長と本多児童館館長から公民館との関係について、地域で青少年の活動をしているところから、光公民館長が所属しているジュニアリーダーについての話を予定している。

委員長：2月の予定は。

事務局：2月23日（火）を予定し、内容としては「地域福祉計画」が策定したので、市と公民館の関係や、高齢者の状況を踏まえ、地域の中での公民館と

の関係を NPO 法人あおぞらにお願いすることを考えている。

事務局：1月の定例会の後に新年会を検討してはどうかと考えている。よろしければ、1月の定例会は3時から始めたい。よろしいか。

委員長：今回の各論のテーマでは、地域の公民館の運営サポート会議の役割は取り上げていない。統一的に国分寺市の公民館運営審議会として集まっているが、地域独自の公民館活動を目指す上では、各館独自の地域づくりを検討する必要がある。そのため、地域からの方向性を探るため、事務局から各館の運営サポート会議へ検討の依頼をお願いしたい。

事務局：各館の館長を通して、公民館運営審議会の協議内容を含めてお願いしていきたい。

委員長：3月は管外研修で、4月の段階で議論の柱を提案し、そこで出た議論をフィードバックしながら調整していきたい。

事務局：3月の管外研修の場所についてはどうするか。

委員：できれば地域づくりに関係した公民館が良いのではないか。

委員長：地域づくりに関係した建物や組織づくりがあればよいと思う。1月に案をだしていただき決めていきたい。以上で終了する。